

練馬区の将来像を考える区民懇談会 教育分野分科会 第3回 議事概要

日時：平成19年10月26日（金）18:30～20:30

場所：練馬区役所東庁舎6階

出席者（敬称略、50音順）

石井和政、伊藤勝、岩田幸彦、奥野雅司、小野明、加藤裕、熊木和枝、鈴木洋子、
諏訪本雄次、田中裕、萩原美奈子、前田明美、三澤ちづ子、南利夫、森田明、渡邊健

1. 区事務局より連絡

- －事務局（区）より、傍聴者がある旨説明があった。
- －配付資料の確認と配付資料の中に脱字があったため、訂正することの説明があった。

2. 討議

- －コーディネーターの高重氏より、前回から1ヵ月が経過していることから、参加者間の交流を図るために、隣席者との間で、自分の1ヵ月の出来事等について話しをする時間を設けるとの提案があった。（全員で実践）

（1）本日の進め方について

○高重コーディネーター

- ・本日は、前回検討した望ましい将来像を実現していく上で、問題になっている点、実現するためにやるべきことなどをとりまとめていくことを目標としたい。
- ・最初に、前回、皆さんで取りまとめたものをベースとして、並び替えをしたものをお配りしているので、これに関してご意見をいただきたい。次に、前回の要領と同様に、一人ずつ、問題や課題をポストイットに書き、グループ内でトランプ談義によって、同じ意見を集めていくという、前回と同じやり方で進めていきたい。
- ・最後に、グループごとに取りまとめられたものを全体の場で共有していくこととしたい。この進め方で特に異議がなければ進めていきたいが、良いか。
- ・最初に、望ましい将来イメージについてとりまとめているものがある。一つ一つのカードの中の言葉は皆さん方ご自身が書かれたことをそのまま活かして書いているが、若干グループを変えたりしている。また、タイトルを付けているが、皆さんがこういうことを言いたかったのではないか、というところまで思いを膨らませ、想像してまとめを付けている。2枚あるが、一枚目はみなさんが望んでいる子どもの姿や家庭・まちの姿に関する将来像である。二枚目は、この将来像を実現するためにどういう仕組みが必要か

という視点で教育環境などについてのご意見をまとめている。これをご覧いただき、付けられているタイトルのイメージが違う、グルーピングが少し自分の意図とは違っているなど、ご意見があれば承り、皆さんにお諮りしていきたい。

○委員

- ・良くまとめていただいた。自分自身の反省、感想がある。一つは施設の視点が全体として少し不十分であった感じがある。二つ目は教育分野という場合、子どもに対する教育と生涯学習分野があるが、生涯学習についての視点が不十分だった感じがする。三点目は本日やる場所に関係するが、課題を検討する時に、望ましい姿に対して、どういう視点でそれを評価するか、という評価ポイントをもう少し詰めていくと、将来像が明確になるのではないかと思った。

○委員

- ・学校教育と生涯学習についての二枚目に「地域の核としての学校づくり」となっているが、学校教育と生涯学習が混在している。ここでいう地域の中の学校は、地域と家庭の三者を「れんけい」させることが大切であるということである。「れんけい」による地域ぐるみの学校づくりというのがいいのではないか。その時に、「れんけい」は「連携」ではなく、繋がるという「連繋」と書く方がいいのではないか。
- ・「年齢を越えて触れ合い・交流機会を生む生涯学習環境をつくる」のグループは、生涯学習であり、施設整備の枠の「自然や環境に配慮した学習・スポーツ施設等の整備を進める」の方に入るのではないか。あくまでも子どもの教育についての枠組みと、生涯学習を別に設定しておいた方がいいと思う。

○高重コーディネーター

- ・地域の核としての学校づくりについては、「学校、地域、家庭の連繋による地域ぐるみの学校づくり」というご提案か。

○委員

- ・もう一つ、資料二枚目の教育改革のところ、「道徳的情操教育」の枠組みであるが、学校教育に道徳学習の時間を設けるという趣旨ではなく、教育全体の中で行っていくべきイメージである。

○高重コーディネーター

- ・「道徳授業」という部分を外すということによいか。

○委員

- ・特にご発言を否定するものではないが、「れんけい」について、私の経験からすると「連携」と「連繋（係）」はあまり区別しないというのが結論のようだ。今回、学校・地域・家庭の「れんけい」といった場合にはお互いが「きょうどう」、それぞれの立場をわきまえた上で協働する（協力する、働く）という意味でいうと、原案でも問題ないと理解した。

○ 高重コーディネーター

- ・「れんけい」については、今日の議論の中でもう一度考えてもいいのではないかと思います。もう一つご意見をいただいた、ありがたい姿をどう評価するのだが、こちらについてはいかがか。

○ 委員

- ・今、学校・地域・家庭の「れんけい」ということが出ているが、私は文字にはこだわらないが、「れんけい」とか協力というようなことが極めて簡単に使われすぎていると思う。私は、夏休みに子どものラジオ体操に出ていて感じたのだが、子どもはラジオ体操第一・第二を知らないという現実がある。それをPTAは夏休みに行っているのだが、子どもは見よう見まねで適当にやっている。学校ではどうしているかというと、オリジナルな学校の体操を持っており、授業でもそれを使っている。ラジオ体操は扱っていない。これは「れんけい」の欠けている現れだと思う。学校はPTA行事には関知しないし、PTAは地域行事だからといってやる。学校・地域・家庭の「れんけい」ということが、かなり表面的に動いているなど思う。

○ 委員

- ・先ほど評価の必要を述べた。今日のグループ討議では、何に対する問題・課題かということを考えるのであるから、当然検討する時には、自分はこの望ましい将来像をどういう視点で評価しているかということが頭にないと、問題点・課題が絞り込んでいかれないと私は考える。先ほどの発言は、ここで、評価の視点を議論して欲しいと提案したわけではない。

○ 委員

- ・進め方では、望ましい将来イメージをまとめていただいたので、平成30年代初頭をイメージしてどのようなことを念頭に置いてそれを実現していくのか、ということで議論をしていけばいいと思う。
- ・現代は、大家族の時代から核家族の時代、さらには個の時代になると思う。今この時代にも問題がかなり出てきているが、これから先にはもっと問題が出てくるのではないかとということを予想して議論すべきだと思う。
- ・大家族の時代は家長を中心とする縦の関係の時代である。そうすると、社会とか世間の規範・道徳とはどの家庭も一致している。しかし、核家族の時代になり、親子とか夫婦とかを中心とする横の関係の時代になってくると、家庭毎の価値観や道徳観、ルールに対する考え方のズレが出てきており、そのようなことも踏まえる必要があるのではないか。また、今度は、結婚せずに独身を通すとか離婚をするなど、単位が非常に小さい単位になることが予想されるが、練馬区では独りでも生きられるように、個の時代に練馬区はこれからどうすべきか、私たちは何ができるのかというものをもって議論しないといけないと思う。

○ 委員

・今のご発言はとても大切だが、今、それを議論するのは大変である。ここに、望ましい将来イメージが出ているのだから、これを10年後に実現するためにはどういう問題・課題があるかという中で、時代的な背景の議論がその中の要素として出てくるということだと思ふ。今のようなお考えの方もいれば、そうではないという方もいて、色々な意見が出てまとまっていく、ということではないか。私は、テーマや望ましい将来像さえ明快であれば、それに到達するための手段、あるいは現状における問題点というのは当然意見が分かれていますと申す。

○ 高重コーディネーター

・私も同様な意見を持っている。皆さんは様々な考え方をお持ちで、その考え方や見方が、ご自分のカードの中に浮き彫りになってくるだろうと思ふ。個の時代という背景が30年ぐらいにはあるのではないかとお考えになる場合には、ご自分のご意見の中に織り込んで、実現したい姿に対しての問題・課題を出すようにしていただければと思ふ。色々な意見があることを前提に、カードを起こしていけば、皆さんの意見を組み入れて議論を深めることができるかと思ふ。

○ 委員

・最後の報告段階には、この懇談会の方針を出すのであるが、その時には文章にするのか。文章にするのならば、書き手の人の意見なり思想なりが反映されてしまわないか。

○ 高重コーディネーター

・最終的には文章化する。文章化は、今回の回数の中でできかねるので、事務局である程度まとめさせていただき、それを皆さんにお諮りしていく。なるべく皆さんの意見を取り入れながら、納得、ご了解をいただき懇談会の中から提案していきたい。

○ 委員

・教育のあり方を掘り下げていくと人間としての生き方、人間としての在り方、存在ということになっていくと私は想像していた。その時に最低限押さえていなければならないものは、私たちは社会的な動物であるということだと思ふ。同時に人間は関係性の動物であるということ。そのようなベースを押さえていないと結びつきというような関係は全く「孤」になってしまうと考える。人間としての生き方、在り方を掘り下げていくと関係性の動物であるということ、押さえた上で進めてほしい。

○ 委員

・進め方についてであるが、議論の時間が短いので、途中で資料による討議など工夫することを考えていただけないか。今回は議事の取りまとめを事前にもらっているの、事前に目を通すことができた。次回以降も議論の効率を上げるための手だてを考えて欲しい。

○ 高重コーディネーター

- ・それでは、将来像を実現する上での問題点・課題の検討に入っていきたいが、よろしいか。前回と同様、カードにご意見をご記入いただきたい。目指したい将来像に対して、何が問題になっているのか、それはこういう方法で解決していったらいいのではないか、という視点で、これから少し時間を取るなので記入をお願いしたい。

(2) 討議

- － 一人ひとりが、教育分野の望ましい将来像に対する現在の問題点や課題などを付箋紙に記入した。
- － 3グループに分かれ、グループ毎にトランプ談義方式により討議を行った。
- － 出席者全体で、討議結果を発表しつつ、問題・課題の類似するものについてグルーピングした。

【討議結果要旨】 詳細は別紙（「第3回練馬区の将来像を考える区民懇談会～教育分野」）参照

- － 一人ひとりが記載した付箋紙によるグループ毎のトランプ談義、懇談会委員全体によるグルーピング作業の結果、「地域における教育環境」「行政の課題」「学校教育のあり方」「施設整備と建設」「世代間のつながり」「シニア世代の活用 地域人育成に向けて」「家庭教育の環境」「ボランティア・奉仕活動の奨励」「障害への理解」「大人教育」「少子化問題」「練馬区らしさのアピール（強調）」のグループに問題・課題を整理することができた。

3. その他

○ 高重コーディネーター

- ・ 本日の成果については、次回までに事務局が付箋紙とグルーピングを再現したペーパーを作成する。それらをベースに、将来像を実現するための課題を踏まえて、どのようなことに取り組んでいけばよいのかなどについて、グループごとに討議し、検討したい。

○ 委員

- ・ 次回は、運営の仕方などについて、会議の開催の時にお示しいただくのではなく、事前に送付していただきたい。それに応じて事前に考えを書き出すなどをしておきたい。

4. 次回予定

- ・ 次回は、11月20日（火）18:30～20:30に開催する。

（以上）